

令和7年度 皇徳寺中学校区 小中連携研修会共通実践まとめ

学習指導	分科会	①「タブレット活用・タイピング指導について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「キーボード」や家庭学習等での活用で、タイピングが上達している。 ・学年学級により使用頻度に違いはあるが、使用時のルールを共通理解し、活用できた。 ・持ち帰りの場合は「使用承諾書」をとり、家庭との連携をとっている。 ・ロイロノートで、自分の考えの整理や友達の意見共有ができた。 ・英語用ノートをロイロノートで配布し、アルファベットの練習につなげた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・変換ミスが多い。インターネットに頼り過ぎないように指導。 ・誰でも見られるところ(資料箱)に個人的な写真を入れない。3月にデータの整理をする。 ・タイピング能力には個人差があるので、継続的に活動に取り組む必要がある。 ・Wi-Fiの接続問題や使い方など再度確認が必要。
		②「宿題の取組について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力もあり、家庭学習に毎日継続して取り組むことができた。 ・それぞれのスケジュールに合わせた家庭学習や生活リズム表を作成させ、日々振り返る活動を実施したところ、計画的に学習に取り組む姿が見られた。 ・マイゴールチャレンジを実践することができた。 ・児童が積極的に取り組めるよう工夫することができた。 ・長期休みを利用して、期限を決めて課題に取り組ませた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・マイゴールチャレンジの取り組み方について、連携が必要である。 ・取り組み方に個人差があるので、手立てを配慮していきたい。 ・文字を丁寧に書くことへの指導を継続していく。 ・課題以外の自主学習が難しい。
		③「基礎学力・身につけてほしい力について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語→書く・読む力をつける／漢字の部首や書き順をしっかりとおさえることで漢字力定着。 ・英語→アルファベット(大文字小文字)、曜日月名が定着できるように繰り返し指導した。 ・社会→都道府県(県庁所在地まで)／歴史は年代のつながりや流れをおさえた。 ・各授業の終末で、教科書等を使い、基本的用語をおさえることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力や量感など、生活の中で学ぶ機会が減っている。 ・基礎学力の定着に差があるので、小テストやドリル学習の時間確保が必要である。
		④「グループワークについて」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループの組み方を工夫すると、よく取り組めているようであった。 ・「自分の意見を考えて書く」→「伝え合う」というグループ活動を行うことで、自分の考えを伝えることに抵抗感が減ったように感じた。 ・ロイロノートの「共有ノート」機能を使ってのグループワークがとても効果的だった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をなかなか言語化できない様子も見られるので、教師側の手立ての工夫が必要である。
		⑤「進路について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元が終わる時に、入試問題に近い設問を提示することができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒が個人で学習をすすめられるような環境をもう少し整えたい。

令和7年度 皇徳寺中学校区 小中連携研修会共通実践まとめ

分科会	生徒指導	①「遅刻早退の多い児童の対応・登下校の様子について」	
		成果	<ul style="list-style-type: none"> ・三校生徒指導主任会を通して、各学校の不登校傾向の生徒の情報を共有できた。 ・生徒会での呼びかけ（生活部の遅刻者チェック、図書部の朝読書の取組等）で、朝の時間に対する意識を高めさせた。 ・無届けの場合は、すぐに保護者に連絡を取り、安否確認を行った。 ・登校渋りの初期段階で保護者と連絡をとり、原因や対策を考えて改善できる方法を考え一緒に取り組んだ。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携体制の構築が必要である。 ・年度当初、引継ぎを確実にしていく必要がある。
		②「いじめ問題の認知について」	
		成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートや学校たのしいーとを活用し、児童からのヒアリングを丁寧に行うよう努めた。 ・児童からの相談があった際、本人、関わった友達に話を聞き、言葉遣い、言葉かけの見直しをするよう、働きかけを行った。 ・道徳の授業の充実。 ・三校生徒指導主任会を通して、各学校のいじめ問題の現状を共有できた。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知については、子供だけでなく教師側も共通理解のもと、指導に当たりたい。小中で連携して取り組んでいく必要があるように感じた。 ・SNS等、目に見えない事例の対応の仕方
		③「あいさつについて」	
		成果	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動であいさつ運動に取り組んだり、「1・2・3」のかけ声で丁寧なお辞儀の意識化を図ったりした。 ・教師から大きな声であいさつすることで、教室内であいさつが飛び交った。 ・朝のボランティア時に元気よく挨拶をしてくれる児童が多く、気持ちがいい。 ・横断歩道で中学生の歩行者を待った時、お辞儀をしてくれたことが嬉しかった。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつにも個人差があり、登下校中や地域の方への挨拶はまだまだである。
		④「給食指導について」	
		成果	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のマナーや大切に給食をいただくこと、栄養を考えて調理をしていることを指導したりしたことで、バランスよく時間を考えて食事がとれるようになったり、自分の健康のために苦手なものも食べたりするようになった。 ・給食当番時の責任感をもたせ、準備や片付けの時間をスムーズに行えている。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・食べるスピードが身についておらず、給食時間内に完食が間に合わない児童もいる。 ・各学級で給食指導のルールが違うので、必要最低限のことを年度初めに話し合う必要がある。 ・家庭も一緒になって食育を進める必要がある。
		⑤「家庭でのスマートフォンの使い方について」	
		成果	<ul style="list-style-type: none"> ・三校生徒指導主任会を通して、各学校の現状を共有することができた。 ・学級PTAで、携帯電話の使用の仕方について話題にすることができた。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階でスマートフォンを持つことが多いので、PTAと連携した取組が必要。 ・携帯電話の使い方やメッセージのやり取り、SNSの使い方等、段階的に指導する必要がある。

令和7年度 皇徳寺中学校区 小中連携研修会共通実践まとめ

旧 小 六 ・ 中 一	分科会	①「TPOをわきまえた行動について」
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室に移動する際、自主的に移動したり集会活動でずっと集まり静かになったりする姿が見られた。 ・特別教室の移動時、担任が付き、専科の先生に児童の状況を伝え、連携をとった。 ・学習活動に一生懸命取り組み、指示されたことは確実に行動しようとする姿が見られた。 ・授業の前に黙想を取り入れたり、学年集会等での行動について話をしたりした。
	課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で教師や児童が話をしているときに、近くの友達と話をよくする児童がいる。 ・先を見通さず、けがや危険な状態が起こることがある。 ・教室や廊下での過ごし方、声の大きさなど、まだ指導が必要な場面がある。学期当初の共通実践事項の徹底が必要。 ・自分たちで考え、行動することが苦手な子どもが多い。
		②「あいさつ・返事について」
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・元気のよい、あいさつ返事ができた。 ・委員会活動などであいさつ運動に取り組んでいる。 ・一事徹底でよい返事を呼びかけてきた。
	課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差がある。 ・あいさつ指導は家庭とも連携が必要。
		③「保護者との関わりについて」
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を通じて、子どもの状況や対応の仕方について確認することができた。 ・全職員でこまめな連絡を取るよう意識して取り組んでいる。
	課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しぶりがあがる児童への関り方で、担任と保護者とのずれがある。 ・それぞれの家庭の考え方もあるので、引き続き丁寧に対応していく。 ・小学校でのトラブルも確実に引継ぎをしていく必要がある。
		④「小学校から中学校への引継ぎ内容について」
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの情報や友人関係などよく把握したうえで、小中連絡会（引継ぎ）を有意義な時間にする事ができた。
	課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なこともできるだけ記録を残し、引継ぎの情報に漏れがないよう努めていく。

令和7年度 皇徳寺中学校区 小中連携研修会共通実践まとめ

分科会	①「各学校の様子について」
特別支援教育	<p>成 ・2週間に一度、特別支援学級担任(支援員を含む)の連絡会を実施し、学級間の連携を図ることができ、在籍児童の支援を協力して行えた。</p> <p>果 ・交流学級担任との連携ができた。</p> <p>・不登校傾向がある生徒が自分のペースで登校できるようになってきている。</p> <p>・3校で「UDの視点による授業づくり」というテーマで校内研修を実施できた。</p>
	<p>課 ・基礎学力の定着を図るための学習指導</p> <p>題 ・心の安定を図りながら、学校生活を送るためのどのような手立てを講じていくか。</p> <p>・中学校卒業をみすえた進路指導</p> <p>・道徳の学習内容によっては特別支援学級で実施したほうがいいものもあるのではないかな。</p> <p>・複数学年で授業の進め方や登校が難しい児童への対応</p>
	<p>②「小中連携・情報交換について」</p>
	<p>成 ・市教委からの調査物があるときなど、電話やメール等を活用し、連絡を取り合っている。話をしながら進めていくことで、子どもの状況など情報共有できるので、今後も連携を大切にしたい。</p> <p>果 ・6月の中学校での特別支援学級説明会・授業参観で、現状を知ることができた。</p> <p>・卒業生の様子についても情報交換を行い、支援や指導の参考になった。</p>
	<p>課 ・通常学級における支援が必要な生徒の情報交換は、どのようにしていくべきか。</p> <p>題 ・情報交換の時間の確保</p>
	<p>③「3校合同学習について」</p>
	<p>成 ・令和7年度はダンスを通しての交流(令和6年度はニュースポーツ)</p> <p>→体も心もほぐれる良い時間となり、児童同士が関わり合っていた。</p> <p>→中学生が小学生に声をかけ、リーダー的存在として活躍していた。</p>
	<p>課 ・9月に体育館で実施したが、蒸し暑さがあり、時期を検討する必要がある。</p> <p>題 ・どのような学習を3校でしていくか話し合っていく必要がある。</p>

令和7年度 皇徳寺中学校区 小中連携研修会共通実践まとめ

養護教諭	分科会	①「けがの対応について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・特に首から上のけがにおいては、管理職や担任への連絡をして、けがの状況や程度によっては保護者へ連絡し、病院受診をすすめることを確認している。 ・スポーツ振興センターへの手続きについて細やかな説明を要した。
	課題	・スポーツ振興センターについて、いろいろな場面で説明できるようにしたい。
	分科会	②「スズキ校務入力について」
	成果	・学校によっては学級担任が健康観察の後ほぼ100%の割合で出欠を入力している。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって入力の差がある。 ・通常の朝の出席確認、健康観察も確実ではない状況がある。 ・連絡の行き違いが生じるなどスムーズにいかないときがあるので、全家庭が学びポケットで連絡するようにしていきたい。
	分科会	③「学校保健委員会について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高で「睡眠・メテア」の取り組み決めをして夏休みの課題帳に入れている。 ・テーマは決めていないが、毎回外部講師に健康にかかわるお話してもらっている。 ・学校医の出席もあり、指導講話もしていただいている。 ・職員や保護者間での意見交換の時間を作ることができた。
	課題	・学校医の参加や保護者の参加率なども含め、内容を精選し、今後の家庭生活につながる内容を考えていきたい。
	分科会	④「成長曲線・肥満度曲線通知について」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校医が診て通知した方が良いと判断した生徒のみに案内を出している。 ・校医から指摘があった児童のみに案内をだしている。 ・データ上異常群であがった児童全員へ案内をだしている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校医が成長曲線に関する専門医でないと見極めが難しいのが現状である。 ・結果通知後の受診率も低いいため、児童の健康の保持増進につなげるために、今後も計画的に進めたい。

※小中連携研修会開催について

- ・年1回の話し合いでは深まりがないのではないか。
- ・年度末に部会から1名や小中連携係等が集まって、年間のまとめの話し合いを持った方がよいのではないか。